

ホリホリの旅の絵日記

堀道広 文・絵
Hori Michiro

Vol.014

引越した山崎潤くん(仮名)に
本場宮崎のチキン南蛮を



ほりみちひろ ● 1975年、富山県生まれ。うるし漫画家。98年「月刊漫画ガロ」でデビュー。漆職人の経験を生かし、金継ぎも手がける。最新刊は「おうちでできるおらが金継ぎ」(実業之日本社)。



宮崎といえば保育園の友達で、引越して行った山崎潤くん(仮名)を思い出す。

下っ端で子分肌だった私は、ガキ大将の潤くんの従順なしもべだった。というか、組のほとんどの園児が、潤くんの手下ランキングの順位を競い合い、いかに潤くんに入られるかを第一にしていた気がする。あれは、何だったのだろう。そんなカリスマ潤くんが、小二の時、引越すことになった。実家の富山から、宮崎というどこにあるかも知らない所に行ってしまう。子供心に「外国のように遠い場所」ということだけはわかった。

あれから数十年、自分はその宮崎に一人旅に来て、サンメッセ日南の七体のモアイ像の前に立っている。モアイはいろんな経緯(いきさつ)があってそこに存在し、イースター島まで行かなくても宮崎で見られる。素晴らしいことだ。空も青い。私も素晴らしいし、モアイも素晴らしい。そんなポジティブな気持ちになれる。初めて食べる本場のチキン南蛮は、甘くてジューシーで美味しかった。これはもって全国的に普及して、かつ井くらしいにメジャーなポジションにいても良いのではないかな。

「潤くん元気かな」と宮崎で思った。